授業筆録

小学校三年　光村三下

平成二六年

言葉について考えよう

にた意味の言葉、反対の意味の言葉

鉛筆一本を挟んだノートと教科書を机の真ん中に重ねて置くよう指示し、揃うのを待つ。

・　おはようございます。

　　おはようございます。

・　今日は、言葉について考えようというところのお勉強です。

（板書　言葉）

・　似た意味の言葉、反対の意味の言葉のところを読んでみましたか。

　　読んでない。

・　読んでない。よし、よし。じゃあね。言葉について考えたいんだけど、君達は言葉を使っているね。どんな言葉を使っているの。

　　ええ…。

　　おはようとか。

・　おはようございます。そういうのは、何語なの。

　　日本語。

・　日本語ね。君達、日本語使っているんでしょう。英語じゃないね。

・　英語の勉強も、三年生はやるの。

　　やる。

・　ああ、やるの。外国の先生が来て教えてくれるの。じゃあ、きいてごらん。外国の言葉と日本の言葉とでは考え方が違うんだよ。そういうところもお勉強になるの。そう考えると言葉って面白い。言葉のどこが面白いかをこれから勉強します。

〈区画〉

・　読んでもらいます。六人で読んでもらいたいと思うので、番号を打ちますから、教科書を開けてください。

（教科書の準備を待ち）

・　「にた言葉」いうところに「1」と書いてください。（板書　1　以下同様）

・　次はね。めくってください。62ページ一番最初のところ「ところで」ってあるね。その上に「2」と書いてください。

・　次。「3」はね。63ページの最初のところ「読み返す」とあるね。その上に「3」と書いてください。

・　ここまで、大丈夫かな。困る人。

（個別に対応）

・　大丈夫だね。はい、次。「反対の意味の言葉」というところが「4」。4と書いてください。

・　次、5。めくってください。「言葉を分類しよう」ここが5。5と書いてください。そしてね。六人目の読む人は、この四角のところだけ読んでください。

ここの「分類しよう」のところに小さな○をつけてください。ここが、六人目に読む人、いいね。

・　鉛筆は、ノートの今日書くところに挟みなさい。挟んだら隅に置いてください。

約六分経過

一　よむ　六名

・　読む順番は決まっていますか。

　　決まっていません。

・　決まっていません。今日は、誰だか分からない。

（担任　こちらから横に）

・　今日は、あなたが一番、題と1。あなたが、2。あなたが3のところ。あなたが4のところ。あなたが5のところ。あなたが○のところ。

・　読む人は、立って、ゆっくり大きな声で。聞く人は、本を両手で持ちなさい。持ったら腰も立てなさい。そしてね。黙って聞いてください。読めないところがあったら先生が教えるからね。読む人、心配しないでいいよ。聞く人は一所懸命聞いてください。

・　さあ、それでは、ゆっくり大きな声で読んでください。お願いします。

・　はい、静かに本を置いてください。

約一四分経過

・　六人の人ね、知らないおじさんが来てね、読んでくださいと言われてドキドキしたでしょう。だけど、ゆっくり

我慢して読んでくれました。力のある三年生だなと思いました。聞く人もね、黙って一所懸命聞いてくれました。それも、偉いと思います。

二　とく

・　私が黒板に書くので黙って見ていてください。（板書　にた意味　反対の意味）

・　にた意味の言葉、反対の意味の言葉、今日は、その言葉の勉強をしますけど、言葉の中の何に目をつけてお勉強するのでしょう。

にた意味の言葉と反対の意味の言葉

・　ああ、それを勉強するのね。にた言葉と反対の言葉は、何が似ているの。

……。

・　今日は、にた言葉と反対の言葉の意味に目を向けて勉強しましょうということ。

・　言葉には意味がある。教科書を開けてください。65ページを開けてください。これ（絵）みてください。ここに四人の子供がいるね。この四人の子供全部を含めると何という言葉になる。

きょうだい。

・　これ、「きょうだい」という言葉の仲間なのね。

・　「きょうだい」の中で、こっち（右側の子）はどういう言葉の仲間なんだろう。

男の兄弟の仲間。

・　男の兄弟の仲間になるね。そういう風に仲間を集めることを難しい言葉で何というんだろう。仲間を作ることを何ていうんだろう。

分類。

・　ああ、分類っていうのね。いい。（五の下に分類と板書しながら）分類の分は、どういう意味。

分ける。

・　分けるだね。「類」というのは同じ仲間という意味です。同じ仲間に分ける。

・　今は、「兄弟」という分類の中で考えた。その中で、男の兄弟の中で考えると、兄と言ったら反対は何になる。

弟。

・　弟になるんだね。兄の反対はいったら、姉と答えたの。その人は、どういう言葉の仲間を考えて姉と答えたのでしょう。

意味が分からない。

・　もう一度いうよ。さっきは、兄の反対は、といわれて男の兄弟で考えると弟と答えてくれました。今度は、姉と答えてくれたのは、どういう言葉の仲間なんだろう。

女の姉妹の仲間。

・　おしかったなあ。兄の反対だよ。そして、姉と答えたんだよ。

・　じゃあ、はい、あなた。

年上のきょうだい。

・　年上のきょうだいの仲間で考えると兄の反対は姉なんです。

・　今日、帰ってね。家の人にね。「兄の反対は何だ」ってきいてごらん。そしたら、お母さんがね、もし、弟と答えたらブブーって言ってやりなさい。答が二つあるからね。どっちか答えたらブブーって。面白くなるね。（笑い）それで遊んでください。

・　反対の言葉を考えるときにも仲間の言葉をもとにして考えるんだよということ。（4の下になかまの言葉と板書）

・　この絵（p60）を見てください。この女の子について説明してくれる人。この女の子、どうしている。はい。

時間を見て、急いでいる。

・　急いでいる。急いでいる様子、どこで分かる、この絵を見て。

あの、走っている。

・　うん。走って、いるね。走り方も、どう。一生懸命走っている。どこで分かる。顔を見てごらん。

髪の毛。

・　髪の毛もあるね、他には。口は。

ハアハアしている。

・　ハアハアしているから、開けているね。さらに、ここ（三つの水玉）にも出ているね。そうすると、一生懸命走っているだけれども、気持ちはどんな

気持ちなんだろう。
　急いでいる。
　慌てている。
・慌てている気持が入っているんだね。それを、こうやっているんです。この子、何で慌てているか、時計を見たら分かるね。何を気にしているの。
　時間。
・時間を気にしているんだね。この先には誰がいるの。
　お友達。
・お友達か、…。
　待っている人。
・待っている人がいるんだね。大事な人が待っているほど、この人の走り方はどうなるの。
　やばいなあ……。
・そうそう、そうなるのね。こっち（右）の方は、どこから出て来たの。
　家。
・家でもいいし、どこかでもいいんだな。一応家から出て来たことにしておきましょう。
〈手引き〉
・今日は似ている言葉について考えていきたいと思います。ここ（p60の□）「急いで家を出た。」と「あわてて家を出た。」という二つの文を書いてください。もう一つ、ここ（p62の□）「ぼくはすっかりあわててしまった。」も書いてください。

約二五分経過

三　よむ　（黙読）
四　かく　（視写　板書）
・終わった人は、鉛筆をノートに挟んで教科書と重ねてください。
・間違えたのを消してしまうとね、せっかく良い記念品を残したのに消えてしまう。間違えたというのも大事な自分の歴史なの。だから消さない方がいい。線を引いて横に直しておけばいい。三年の終わりの時に、ノートを見返して、私、こんなところを間違えるんだなあということを思い出すとね、今は、そんな間違いはなくなったなあと、自分が大きくなったのがよく分かるの。だから大事なんだよ。消しちゃうとね、そういうことも忘れちゃうの。
・じゃあ、そのまま、机の中に仕舞えるかな。

約三一分経過

五　よむ（指黙読　指音読）
・さあ、手を降ろして腰を伸ばして。これを読んでもらいます。声を出さないで読んでもらいます。いいね。（一回）
・じゃあ、今度は、いい声出すんだよ。急いで家を出た。はい。（指音読一回）
・ここ、点があるからちょっと休もうね。はい。（ぼくは、……をもう一回）
六　とく
・よし。難しい言葉ある、この中に。難しい言葉はない。
　ない。
・ない。じゃあ、急いでという言葉の反対は何。急いでの反対の意味の言葉は何ですか、ときいているのです。
　急いでだから、ゆっくり。
・そうそう。ゆくっりだね。（板書）
・じゃあ、慌てては、分かるね。様子を表している言葉だね。慌てるの反対は何。
　落ち着く。
・落ち着く。この場合は、落ち着いて。
　（板書　落ち着いて）
・すっかりって、何。
　すっかり…。
・すっかりって、どういうときに使う。すっかりっていうのは、残りは有るの。
　ある。
・すっかりなくしてしまったというときには、残りはあるの、ないの。
　ない。
・すっかり慌ててというのは、慌ててしまって、他のことは何もないの。ただ慌ててしまったということ。いいね。
・しまった、というのは、どういうときに使う。
　……。
・これで、おしまい、というときに使う。何々やってしまったということですね。
・これ、二つに分けると、こう分けられるでしょう。「家を出た。」どういう風に家を出たかで、分けられるでしょう。ここだけ（前）後で入れ替えることにします。そうすると、ここでやっ

たことは何。
出たこと。
・どういう風に出たの。
急いで。
・急いで出た。ここでやったことは。
慌てて出た。
・慌てて出た。やったことはこっち。
・じゃあ、ここの（あわてて）の代わりに急いでを入れて読んでみましょう。
ぼくは、すっかりいそいでしまった。（元気よく全員で読む）
・なんか変だね。使えないねえ。どうして使えないかを考えるために、慌てるの代わりに、その時には、気持ちはどうなの。
落ち着きがない。
・そうすると、気持ちを表す言葉を考えるとよい。気持を表す言葉と言ったら何。
落ち着いて。
・落ち着いてもいいね。他には。
びっくり…。（小さい声あり）
・驚くっていう言葉、気持ちを表す言葉にない。
ああ。
・おどろく（板書しながら）。そうしたら、驚いてと入れたらおかしいか、おかしくないか。「ぼくは、すっかりおどろいてしまった。」これは、いいね。
びっくり。
・あっ、びっくり。（板書　びっくり）他には。
悲しい…。（小さな声あり）
・こんな言葉もよくない。（板書　おこって）怒ってでもよさそうだね。他には…。こんなことない。（板書　こうふんして）これだったら入りそうだね。そうすると、これ、どうもみんな気持ちを表す言葉だったら入るけど…。
忘れてしまった。
・ああ、それもいいね。急いでの時には、その後に何かすることに繋がらないと困るね。つながるときにはいいけど、繋がらない時には、これは、使えないんだよっていうお勉強。（1の下に「使い分ける」と板書）
・さあ、どっちを使うかは、誰が使い分けるの。日記に書くとしたら、どっちを書くかは、誰が決めるの。
自分が、書くから。
・そう、自分が決める。気持のことを強く書きたいなあというときには、こっちを選ぶかこっちを選ぶか。
慌てて…。
・うん、こっちを選ぶね。出た様子をいいたいときには、こっち（急いで）を選んでもいいね。そういう風に使い分けるということ。にた言葉も同じようには、使えないんだよっていうお勉強。（2の下に「同じように使えない」と板書）
・ここ（3）のところは、次に勉強しますから考えておいてください。何が書いてあったか、うちに帰って読んでみてください。
七　よむ
・読んで終わりにします。腰を立ってください。これ（鞭）に合わせて読んでください。いいね。
ゆっくり家を出た。
急いで家を出た。
落ち着いて家を出た。
あわてて家を出た。
ぼくは、すっかり
あわててしまった。
ぼくは、すっかり
おどろいてしまった。
ぼくは、すっかり
びっくりしてしまった。
ぼくは、すっかり
おこってしまった。
・しっかり読めました。家に帰って、また、ここのところを読んでみてください。（本を見せながら）面白いことをいろいろ勉強できます。図書館で探してみてください。これね、似た意味の言葉と反対の意味の言葉がまとめて書いてある辞書です。これは、大人の電子辞書。これ引くと、いろんなのがいっぺんに出てくる。いろいろな辞書があるので、辞書を使いながら勉強してみてください。今日は、ここまでにします。
気をつけ、礼。（日直）
・お疲れ様でした。
ありがとうございました。
約四二分経過